

## 『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」

## 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

## 1 前文

「地理総合」部分（配点 50 点）は、第 1 問から第 4 問における 16 の設問で構成され、学習指導要領における「A 地図や地理情報システムで捉える現代世界」、「B 国際理解と国際協力」、「C 持続可能な地域づくりと私たち」の目標や内容を踏まえた出題である。なお、第 1 問と第 2 問は『地理総合、地理探究』との共通問題である。

問題作成方針では、学習指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ、地理に関わる事象を多面的・多角的に考察、構想する過程が重視されている。なお、評価に当たっては、報告書（本試験）15ページに記載の 8 項目の観点により、総合的に検討を行った。

## 2 内容・範囲

第 1 問 世界と日本の生活文化の多様性に関して、写真や地図、資料から情報を読み取り、場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、祭礼と地理的環境、ワーキングホリデー制度による人々の往来、消費活動の地域性、余暇関連施設の立地について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。『地理総合、地理探究』との共通問題である。

問 1 世界の四つの地点周辺における祭礼の特徴についての写真と文を読み取り、それらの地点周辺の自然環境や社会環境に関する知識を基に、祭礼の地理的背景を考察する良問。

問 2 日本と三つの国の間でのワーキングホリデー制度による人々の往来とその変化について、図を読み取り、日本とそれらの国の結び付きに着目して考察する問題。

問 3 三つの国の家計消費支出割合についての資料を読み取り、消費活動の特徴と社会的背景などの関係に着目し、消費活動の地域性を考察する問題。

問 4 都道府県別に示された余暇関連施設の分布を読み取り、自然環境や社会環境の地域性についての知識を基に、三つの余暇関連施設の立地の違いについて考察する問題。

第 2 問 山口県周南地域の発展について、景観写真や地形図、主題図やグラフなど多様な資料を読み取り、空間的相互依存作用や地域などに着目し、地理的特徴を考察する地域調査の問題。調査対象地域の地形、工場群や市街地の変化、国内外との貨物取引、人口増減や医療機関の分布などの特徴や変容の要因を多面的・多角的に考察する問題によって構成されている。『地理総合、地理探究』との共通問題である。

問 1 山口県光市の地理院地図と海岸地形の景観写真を読み取り、写真が撮影された各地点を判断する問題。

問 2 周南市中心部の新旧地形図を読み取り、沿岸部の工場群や市街地の変化を考察する問題。

問 3 徳山下松港における国内外との輸出・移出及び輸入・移入の貨物取引量の割合を示したグラフを読み取り、徳山下松港周辺の施設や産業の特徴を示した文を基に、各指標を考察する良問。

問 4 周南地域の人口増減を示したメッシュマップと医療機関の分布を示した地図、地域内の各自治体の人口推移を示したグラフを読み取り、沿岸部と内陸部・島嶼部との特徴の違いやその変容などについて考察する問題。

第 3 問 日本の自然環境と防災に関して、地図や写真、資料から情報を読み取り、人間と自然環

境との相互依存関係や地域などに着目して、河川流量の季節変動、河口付近における地形と土地利用、島嶼部での災害リスクと被災想定、避難経路と避難場所の特徴について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 三つの地点における河川流量を示した図からその特徴を読み取り、各地点及びその上流域の気候環境に関する知識を基に、気候の特徴と河川流量の関係について考察する問題。

問2 河口付近の写真中に示された四つの地点における地形の特徴を読み取り、地形の形成過程に関する知識を基に、自然環境と人間生活の関わりを考察する問題。

問3 二つの島における津波浸水想定と土砂災害警戒区域を示した図を読み取り、津波と土砂災害に関する知識を関連付けて、位置や成因の異なる島の災害リスクの違いを考察する問題。

問4 避難経路、陰影起伏図、浸水想定区域を示した図をそれぞれ重ね合わせて読み取り、各避難経路と避難場所の特徴を考察する良問。

第4問 地球的課題に関して、地図や写真から情報を読み取り、空間的相互依存作用や地域などに着目して、環境問題、食料問題、アフリカ諸国の格差とその変化、消滅危機言語について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 四つの地点周辺の環境問題について、発生要因とその影響に関する知識を基に判断する問題。

問2 穀物生産量と消費量の地域別割合を示す図を読み取り、各地域の農業や人口規模に関する知識を基に、食料需給の不均衡について考察する良問。

問3 アフリカにおける国別の1人当たりGNI、GDPの増加率、原油産出量を示した図を読み取り、アフリカ諸国の経済格差やその変化、資源分布の偏りを考察する問題。

問4 消滅の危機にある少数言語の保護や振興を目的とした取組について、写真と文を読み取り、少数言語に関する知識を関連付けて判断する問題。

### 3 分量・程度

第1問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

問2は、知識の有無や地理的な見方・考え方を働かせることができたかによって差が表れた。

問3は、日本とアメリカを判断する根拠の一つとして、両国の医療保険制度の違いについての知識が求められたこともあり、「地理探究」を履修していない受験者には難易度がやや高い。資料や文章量ともに適切である。

第2問 地図や資料から読み取った内容を基にした思考力を問う標準的な難易度の問題で構成されている。問3は、石灰石の国内自給率が高いことを知っているのと解きやすいものの、資料を丁寧に読むことで解答にたどり着くことができるよう工夫されている。資料や文章量ともに適切である。

第3問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

資料や文章量ともに適切である。学習指導要領における「地理総合」C(1)の目標や内容では、自然災害を基にした自然環境の理解が求められているが、問1、問2の出題内容は、その対応が見出しにくい。

第4問 全体的には基本的な知識・技能やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問3は、アフリカの産油国の分布に関する知識が求められ、「地理探究」を履修していない受験者にはやや難易度が高い。資料や文章量ともに適切である。

#### 4 表現・形式

第1問 多様な資料が用いられており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する出題形式で適切である。問1は、基本的な知識を基に、写真と文から地理的な見方・考え方を働かせて考察できるようによく工夫されており、「地理総合」らしい設問である。

第2問 地域調査として、生徒が景観写真や地図などの資料を基に、地域を多面的・多角的な視点から考察する場面が設定されている。問4は、分布図の記号が海岸線と重なり、読み取りにくい部分が見られる。記号の種類をより視認しやすいものとするなど、工夫が必要である。

第3問 自然災害と防災に関して、ハザードマップや陰影起伏図、主題図、写真など地理学習で用いられる資料から考察する出題形式であり、適切である。いずれも特徴を判別しやすいものである。問4は同じ範囲の地図を重ね合わせて避難経路の特徴を考察する出題となっており、地理的な見方・考え方を働かせて考察できるため、教材としての価値も高い。

第4問 多様な資料が用いられており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する出題形式で適切である。大問全体を通じて、地球的課題を大観し、その理解を問うたり、各地で共通する傾向性や課題相互の関連性を見出したりすることのできるような設問構成の工夫を期待したい。

#### 5 まとめ（総括的な評価）

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って、学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を測るための良問で構成されている。特に、高等学校教育で身に付けた、大学教育の基礎力となる知識及び技能や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くための文章や統計資料、主題図といった様々な資料の読解力が試される試験となっている。「地理総合」で扱う内容が万遍なく出題され、標準的な問いを中心にバランスよく配置されている。中学校までの学習を基にしながら幅広い学習が求められる問題構成である。

第2問で場面設定がなされ、地域を調査する際に着目する視点、地図や景観写真の判読や、GISを活用した分析などの多様な調査方法、地理的な考察の仕方、調査した内容のまとめ方などが提示され、学校現場に参考となる出題となっている。また各設問は、生徒の興味・関心に応じた探究過程に沿っており、設問間で学習内容のつながりを感じることができる出題である。第1問の間1、第3問の間4などは、地理的な見方・考え方を働かせて考察することを求めており、学習者や授業者に対して必修科目である「地理総合」の学習において身に付けるべき資質・能力の方向性を示していると言える。

全体的には適正な難易度であり、受験者にとって初見となる資料が付された問題も見られるが、与えられた資料から情報を読み取り、解答することが可能である。

一方で、第1問の間3や第4問の間1、問3のように「地理総合」の学習では必ずしも取り扱わないであろう個別的知識を必要とする設問も見られる。基礎的・基本的な学習事項の理解を基に、地理的な見方・考え方をしっかりと働かせて正答を導くことができる問題が出題されるよう、求められる知識の水準については留意が必要である。第4問は地球的課題に関する大問であるが、個別的知識を基に解答する問題が複数見られ、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する視点を求めたい。

全体を通して、高等学校での学習内容を基にした基本的な知識や思考力を問う問題、探究的な学習の例となる問題が随所に見られ、高等学校における授業改善の指針となる試験である。